

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K12510

研究課題名（和文）アフリカにおける解放闘争と女性解放の比較：女性のエージェンシーに着目して

研究課題名（英文）Comparative Study on Women Liberation under Liberation Movement in Africa:
Focusing on Women Agency

研究代表者

眞城 百華（MAKI, Momoka）

上智大学・総合グローバル学部・教授

研究者番号：30459309

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：アフリカにおける解放闘争と女性解放に関して、主にエチオピアと南アフリカに着目して研究を行った。資料渉猟に加え、両国において元女性兵士に対するオーラルヒストリー調査も実施した。解放闘争後、約30年経過した段階において直面する課題、記憶や経験の継承について女性たちのエージェンシーに着目して検討することが可能となった。南アフリカにおける総選挙直前の政治動向（与党の分裂）、エチオピアでは調査地における内戦爆発と80年代に解放闘争に参加した世代にとり新たな変化も生じており、長期的な戦後の女性兵士の経験の蓄積の分析はアフリカ女性史の理解を深めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、アフリカにおける解放闘争における女性のエージェンシーが、解放闘争期のみならず、その後の国家建設や政権運営、社会の復興など多方面で発揮されていることが明らかになった。アフリカの紛争と女性について短期的な支援プログラムに関心が集まるが、歴史的文脈、さらに長期的なスパンに及ぶ女性のエージェンシーに着目した分析は、今後の紛争後社会の再建、復興の再考にも寄与する。自叙伝の出版など新しい動きについても今後検討していきたい。またエチオピアの事例では政治変動により新たな紛争が発生し、女性の動員、ならびに深刻な被害が生じている。この新たな紛争の理解、ならびに戦後復興に、本研究の歴史分析は資する。

研究成果の概要（英文）：Research was conducted on liberation struggles and women's liberation in Africa, focusing mainly on Ethiopia and South Africa. In addition to document research, oral history surveys were conducted with former women soldiers in both countries. It was possible to examine the challenges faced in the 30 years following the liberation struggles and the transmission of memories and experiences, focusing on the agency of the women. Political developments in South Africa just before the general elections (division of the ruling party) and the outbreak of civil war in Ethiopia in the study area also brought about new changes for the generation that participated in the liberation struggle in the 1980s, and the analysis of the accumulated experiences of women soldiers in the long-term post-war period deepened our understanding of African women's history.

研究分野：アフリカ史

キーワード：アフリカ史 女性 ジェンダー エチオピア 南アフリカ 解放闘争 女性兵士 エージェンシー

1. 研究開始当初の背景

前科研(「アフリカにおける紛争と女性のエージェンシーに関する基礎的研究」18K11903)の研究成果をうけて、本研究ではさらにアフリカにおける紛争と女性のエージェンシーについて研究を発展させた。

紛争後のアフリカの女性に関する研究としてはアフリカの紛争国における女性の戦後の地位に着目した Tripp 編の「ポストコンフリクトアフリカにおける女性と権力」では、ウガンダ、リベリア、アンゴラを分析し、さらに紛争を経験したアフリカ諸国について女性の権利や指導力、ローカル NGO などの活動について分析を行っている。(Tripp, Ali Mari, *Women and Power in Postconflict Africa*, Cambridge University Press, 2015.) 本書は法制度や機構の分析に限定されている。本研究は、Tripp の研究では十分議論されていない、エチオピア、エリトリア、南アフリカ、ジンバブウェの事例を扱い、女性のエージェンシーに注目してアフリカの「紛争と女性」研究をさらに深化させる余地がある。

また女性のエージェンシーに着目した Meintjes, S, Pilay A, Turshen M, *The Aftermath: Women in Post-War Reconstruction*, Zed Books, 2002 の研究は、南アフリカやエリトリアを含む複数の紛争後社会における女性たちに着目した研究である。同研究は戦後 10 年の時点でなされており、本研究ではこの研究後、さらに約 20 年が経過した現在にまで注目する意義があると考えられる。現在、多くの元女性兵士が職場を退職し、紛争下から戦後の経験を振り返る時期、またエチオピアなど一部の国では解放闘争に関与した政権が新政権に移行しつつある時期に、それぞれの女性たちにとって紛争に関与した経験や果たした役割や犠牲や被害について再検討することを目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、戦中と戦後を架橋して紛争を経験したアフリカ女性のエージェンシーを多角的に分析し、各国の自製の比較と再検討を行うことにある。この分析を通じて、紛争中から紛争後社会に架橋するアフリカ女性の変革の力を明らかにすることを目的とする。各国事例の比較だけでなく、同時代に展開された解放闘争間で特に女性の問題や女性解放について各国の女性兵士や幹部がいかに連携を図ったのかという関係性にも着目して分析を深め、アフリカ女性史の視点で解放闘争期の女性解放の受容や展開、戦後に及ぼした影響について明らかにすることを目指す。

3. 研究の方法

上記の研究目的を達成するために以下の 2 つの研究課題を設定した。

課題 : 紛争中ならびに紛争後の女性のエージェンシーに関する実態解明

課題 : 解放運動に参加したアフリカ女性たちの連帯・連携の実態解明

各課題における具体的な研究手法は以下となる。

課題 : 紛争中ならびに紛争後の女性のエージェンシーに関する実態解明

本課題では特に以下の点に着目し、エチオピア、エリトリア、ジンバブウェ、南アフリカの女性兵士、また紛争の関与した女性たちの経験、取り巻く環境、女性たちのエー

ジェンシーについて実態を解明し、その成果をもとに比較検討を行う。基課題の分析枠組みを用いるが、特に戦後の女性については土地配分、参画した解放組織との関係、War Veteran Association における女性の地位や活動など新たな検証項目を追加して検討を行う。

-) 戦前の女性：女性の地位（政治・経済・社会・文化・家庭） ジェンダー規範
-) 戦中の女性：被害・犠牲、紛争参画（党員・兵士・支持・支援）、女性の組織化、女性政策（政治参加、経済的エンパワーメント、ジェンダー規範の変化、女性解放政策）
-) 戦後の女性：戦後復興プログラム・DDR（地元女性兵の社会復帰プログラム、教育、除隊一時金、経済支援） 解放組織（政党）との関係、国軍との関係（除隊、国軍残留、War Veteran Association における地位・活動、解放闘争を支援した民間人との戦後の相違や格差） 移行期正義と女性、政治（国会・地方議会の議員、議員活動、女性の法的地位、女性に関する政策） 経済（経済的諸権利へのアクセス、土地配分、女性起業家、マイクロファイナンス、職業訓練） 社会（女性の組織化、社会活動、ローカル NGO の活動、コミュニティにおける女性の地位、教育） 家庭（家族関係における女性の地位、ジェンダー規範の変化）

先行研究の少ない) は、調査項目が多いが、戦中から戦後を架橋する女性のエージェンシーの評価にとっては肝要な調査項目である。元女性兵士・解放勢力メンバーなどへのインタビュー調査、先行研究の再検討を中心に研究を進める。

研究手法は、歴史学に基づき史料渉猟とその分析に加え、関係者へのインタビューに基づくオーラルヒストリー分析を行う。

課題 解放運動に参加したアフリカ女性たちの連帯・連携の実態解明

当課題では主にアフリカとヨーロッパにおける女性解放闘争参加者の活動や連携を明らかにする。南アフリカの反アパルトヘイト運動は国外に拠点を有し、国際的な反アパルトヘイト運動との連携により強固な支援を受けてきた点は多数の先行研究によって指摘されている（Bernstein 1994 他）。一連のアフリカの解放闘争に対する国際的支援の中には、在外に居住したアフリカ人女性の役割も大きい。エチオピアでは各解放闘争における女性解放思想の導入に欧米に留学したエチオピア女性知識人の影響が大きい。また国際的に支援を受けた南アフリカの ANC は一部の女性指導者たちがヨーロッパで女性解放思想を学ぶ機会を得ており、同時に多数のアフリカの知識人女性が同プログラムに参加していたことが基課題の調査で明らかになった。本研究では文献研究に加え、オーラルヒストリー調査も含めて分析を進める。

4. 研究成果

本研究課題ではアフリカにおける解放闘争と女性のエージェンシーに着目し、特に南アフリカならびにエチオピアの 60 - 80 年代の解放闘争期の女性兵士について検討した。文献や史料渉猟、分析に加え、元女性兵士に対してオーラルヒストリー調査も実施した。

申請段階では、エリトリアならびにジンバブウェにおける調査も検討していたが、政情ならびに COVID 対策の影響により本研究期間内には現地調査は不可能となった。両国についてはこれまで実施した調査ならびに文献分析を中心とした研究を行った。またモザンビークやアンゴラ、ナミビアなど同時期に解放闘争を経験した国における女性の参画について

も同様に検討した。

上記の研究目的を達成するために以下の2つの研究課題を設定した。

課題 : 紛争中ならびに紛争後の女性のエージェンシーに関する実態解明

課題 : 解放運動に参加したアフリカ女性たちの連帯・連携の実態解明(アフリカ大陸内とヨーロッパにおける活動を中心に)

課題 : 紛争中ならびに紛争後の女性のエージェンシーに関する実態解明

解放闘争期の女性のエージェンシーについては、元女性兵士を中心にオーラルヒストリー調査を継続して行い、実態解明を進めた。

本研究では先に指摘した Meintjes2002 の研究の問題関心を継承し、さらに約20年が経過した現在までの長期間の変化や経験に注目して研究を行った。戦後10年では顕在化しなかった、トラウマ、記憶の継承、退役軍人への補償問題、新たな政治変動の影響など解放闘争に参加した女性たちが直面する課題や新しい動向について明らかにすることができた。

南アフリカでは、元女性兵士たちによる自伝の執筆やそのためのワークショップなど記憶の継承が積極的に行われていた。またパレスチナとの連帯におけるデモ参加やスピーチにおいても元女性兵士の活躍が見られるなど女性のエージェンシーを再評価する動きがみられた。他方で解放闘争参加者の高齢化に伴いリタイア後の生活の困窮など課題も顕在化しており、退役軍人を対象としたプログラムの運営について調査を行った。

さらに同国では2024年5月に総選挙を迎えるにあたり2023年12月に新党MKが前大統領ジェイコブ・ズマにより創設され、与党ANCから多くの党員がMK支援にまわり、事実上与党の分裂の様相を呈した。24年の選挙では新党MKが躍進し1994年以降、国会の単独過半数をしめていたANCの盤石な基盤を切り崩した。反アパルトヘイト闘争においてANCの軍事部門であったMK(民族の槍)の名称を継承した新党MKには一部のも元女性兵士も参加しており、今後も影響力を注視していく必要がある。

エチオピアのティグライの事例は、2020年から2年間にわたりティグライと中央政府の間で新たな内戦が勃発した影響も含め検討した。戦争の影響で現地調査が長らく実施できず、在外ティグライ人を中心とした調査をアフリカ、アメリカ、ヨーロッパにおいて実施した。ティグライにおける内戦下では、元女性兵士を含む解放闘争参加世代が再び戦争に従軍する例も見られたが、元TPLF兵士であったことを理由に甚大な迫害を受けた事例も明らかになった。元女性兵士に対する戦時性暴力も報告されている。与党として権力を握ったTPLF(ティグライ人民解放戦線)の下野、中央政府との対立、内戦と劇的に変動する政局をうけて解放闘争期の再評価が元兵士やディアスポラでも生じている。

課題 : 解放運動に参加したアフリカ女性たちの連帯・連携の実態解明(アフリカ大陸内とヨーロッパにおける活動を中心に)

南アフリカについては、先行研究やANCの在外オフィスの史料なども豊富にありこれらの分析を進め、さらに関係者へのインタビューの分析も進めた。南アフリカとジンバブウェ、モザンビーク、アンゴラ、ナミビアの解放闘争に参加した女性たちの連帯や連携に加え、ANCがヨーロッパに拠点を置いて反アパルトヘイト運動を推進する際に、女性メンバーを積極的に動員して世論醸成をはかっていた点は、これらの活動に参加した

女性たちのエージェンシーとともに評価することで戦後への影響についても検討することを可能とした。エチオピアは、80年代に軍事政権下の女性組織が ANC に接触した点等明らかになったが、軍事政権側の女性たちがアフリカの他の解放闘争と連携する機会に限定されていた。他方、当時反軍事政権を掲げた TPLF はエリトリアの EPLF と連携して欧米、中東において支援獲得のみならず女性解放を含めた思想と運動を導入しようとした動きが一部で見られる。知識人や留学生の女性たちを通じて欧米の女性解放思想を、エチオピアやエリトリアの現実に適応させ変革をもたらそうとしたのかという試行錯誤がその実践と文書から明らかになった。

本研究課題に関する研究成果については、国際会議、学術大会シンポジウムなどにおいて発表を行った。本科研は、別科研（国際共同 A：20KK0283）と同時進行で実施しており、別科研の最終年度である 2024 年度に研究成果となる翻訳書を刊行し、また 2 冊の学術書の刊行も予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 眞城 百華	4. 巻 70
2. 論文標題 内戦拡大の危機迫るエチオピア・ティグライ戦争一年の評価	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 120-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 眞城百華
2. 発表標題 エチオピアにおける民族連邦制とティグライ人民解放戦線
3. 学会等名 日本ナイル・エチオピア学会第31回学術大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 眞城 百華
2. 発表標題 エチオピアにおける政治変動と『ティグライ問題』
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 眞城 百華
2. 発表標題 エチオピアにおける国家と民族間関係再考：ティグライの視点から
3. 学会等名 京都大学アフリカ地域研究資料センター・アフリカ地域研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 眞城 百華
2. 発表標題 紛争下における女性のエージェンシーの検討：エチオピア・ティグライ女性協会の経験
3. 学会等名 国際政治学会2021年度研究大会部会「アフリカにおける『ケア』の政治」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 眞城 百華
2. 発表標題 混迷するエチオピア-ティグライ戦争とアビィ政権
3. 学会等名 上智大学アジア文化研究所・アフリカ学会関東支部例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 眞城 百華
2. 発表標題 「エチオピア・ティグライにおける女性兵士の経験 - 戦時下の女性解放と戦後への架橋」
3. 学会等名 日本ナイル・エチオピア学会第32回学術大会公開シンポジウム兼大阪公立大学女性学研究センター2023年度第27期女性学講演会「女性兵士が問いかける地平：エチオピア、ルワンダ、ソ連・ウクライナの事例から」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Momoka MAKI
2. 発表標題 “Tigray Women Fighters and their Agency during the Ethiopia-Tigray War of 1975-1991 ”
3. 学会等名 African Studies Conference “African Women, Civil Wars, and Peacebuilding” , University of Maryland, Baltimore
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 松田素二、寺嶋秀明、坂井信三、鈴木英明、網中昭世、武内進一、米田信子、苅谷康太、杉山祐子、正木響、荒木圭子、中尾世治、佐藤千鶴子、石川博樹、眞城百華、溝辺泰雄	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 316
3. 書名 アフリカ諸地域 ~20世紀	

1. 著者名 Wakana Shiino, Christine Mbabazi Mpyangu, Haruka Arie, Kaori Miyachi, Yumi Kamuro, Momoka Maki, Chris C. Opsen, Constance Mudondo, Eri Hashimoto, Ian Karusigarira, Keiji Fujimoto	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPC	5. 総ページ数 364
3. 書名 Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach	

1. 著者名 Tekeste Negash, Berit Sahlstrom, 眞城百華、石原美奈子 (訳)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 119
3. 書名 エチオピアの歴史を変えた女たちの肖像	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

イタリア	パヴィア大学			
南アフリカ	ケープタウン大学			